



きやま

真庭市立木山小学校だより

R5年度 第10号

令和5年 6月16日(金)発行

5年生「山の学校」に行ってきました！

6月8日(木)・9日(金)の2日間、5年生が国立吉備青少年自然の家に行き、体験学習をしてきました。1日目は、野外炊事・キャンプファイヤーなどに取り組みました。野外炊事のカレーづくりでは、自分たちの経験から調理はスムーズに作業ができていましたが、薪割りや火起こしなど、初めて取り組む作業は慣れないため悪戦苦闘しながらも、みんなで協力をしながら取り組み、火が燃えはじめると大喜びでした。そしてカレーやご飯ができあがったときには、「おいしそう。」「早く食べたい。」などの声が聞かれました。また片付けの時も積極的に作業に取り組み、すすのついた鍋を一生懸命洗っている姿が見られました。

キャンプファイヤーでは、各班で準備をしていたスタンプに取り組みました。参加型の出し物が多く、みんなで楽しんで取り組むことができ、たくさんの笑顔を見ることができました。出し物が終わった後には大きな拍手も聞かれ、お互いの頑張りをたたえている姿が見られました。



2日目はカッター訓練と焼き板に取り組みました。カッター訓練では、はじめは動きがなかなか揃わず、スムーズに進まないこともありましたが、「よいしょ」「よいしょ」と大きな声が出るようになると、みんなの気持ちも一つにまとまり、スムーズに進むようになりました。また、他の学校とも一緒に行ったことで、子どもたちの中に、“他の学校には負けたくない”という気持ちから目標ができたことで、さらに力がまとまったのかもしれませんが、焼き板では、焼いた板をたわしできれいに磨き、木目がきれいに浮き出た面に、油性ペンでデザインをしていきました。みんなきれいな作品を作ろうと、ていねいに磨くことができていました。山の学校の思い出として、自分たちの思いを板にイメージすることができていました。

この2日間で、子どもたちは、大きな声で挨拶をしたり、友だちと協力をしながら作業に取り組んだり多くの頑張っている姿を見せてくれました。周りを見て行動するなど、まだ「のびしろ」はありますが、

今回の経験をこれからの学校生活に活かしてほしいと思います。今後の成長に期待をしています。

第1回友だち読書

6月14日(水)、今年度第1回目の「友だち読書」を実施しました。なかよし班の中で低学年と高学年がペアになり、高学年が低学年へ本の読み聞かせをする本校の伝統的な異学年活動の取組です。

どの教室も読み聞かせの優しく穏やかな声色で満たされていました。中には、自宅にいる友だちにタブレットを通してオンラインで読み聞かせをしている高学年児童もいました。

読んだことがある本でも、お兄さんお姉さんに読んでもらうと、また違った味わいがあるものです。低学年の児童は、とても嬉しそうな表情で耳を傾けていました。



5年生「田植え」

5月9日にもみまきをした後、妹尾さんにお世話になりながら、交代で水やりをして苗を育ててきた5年生が、6月5日(月)に田植えを行いました。

妹尾さんから苗の持ち方や植え方の説明を聞いたら、いよいよ田んぼの中へと入ります。田んぼの感触に当初はとまどっていましたが、慣れると最初に教えていただいた適切な苗の本数を確認しながら、黙々と植え進めていきました。

今年は数年ぶりに「もち米」を育てることにしました。お米を育てて観察するだけでなく、収穫したもち米をどのように活用し、学習を帰着させていくのか、総合的な学習の時間にみんなで話し合いながら方向性を決めていくことと思います。これからの展開が楽しみです。



5・6年生「オンライン平和学習講演会」

6月14日(水)、5・6年生がウクライナ出身のチジェンコ・アロナさんのお話をオンラインでお聞きしました。チジェンコ・アロナさんは、ロシアのウクライナ侵攻により昨年5月に来日されたそうで、現在は総社市役所職員として勤務しておられます。

講演では、ウクライナの美しい自然や伝統文化などについて写真や動画を交えてたくさん説明してくださいました。そして最後は「ウクライナの人々は、電気や水道も使えない中、建物の地下や避難所で、いつ元の生活に戻れるのか分からないまま過ごしています。戦争は、建物や街を壊すだけでなく、人を家族や友だちから引き離し、心を壊すものです。」というお話で締めくくられました。子どもたちは逼迫したお話の内容に驚きつつ、「ウクライナにとっても日本にとっても戦争は辛いこと。早く終わってほしい。」という思いを強くしていました。

